

新桂沢ダム定礎式を行いました

平成29年11月19日(日)しんしんと雪降るなか、「新桂沢ダム定礎式」が挙行されました。

定礎式とは、ダムの基礎が立ち上がったことを記念することとともに、ダムの本格的な築造に際し、礎石をそえてダムの永久堅固と安泰を地域の皆様とともに願う行事であり、ダム建設工事の中でも重要な行事とされているものです。

当日は、主催者による式辞、事業主による挨拶の後、国会議員7名、北海道知事(代理:空知総合振興局長)、地元の三笠市長より祝辞を賜りました。続いて、工事報告を行った後、定礎の儀として礎石の搬入、定礎宣言、鎮定(ちんてい)の儀、斎鍍(いみごて)の儀、斎槌(いみつち)の儀が進められ、埋納(まいのう)の儀としてクレーンによりコンクリートが投入され、礎石が埋納されました。最後に、岩見沢市長による万歳三唱とあわせて、三笠市長、三笠市議会議長、岩見沢市議会議長(代理:岩見沢市議会副議長)、地元関係者(移転者等)による久寿玉開披が行われ、無事式典は終了しました。

新桂沢ダム定礎式



- 開催日時 平成29年11月19日
10:30~11:45
- 出席者 国会議員
北海道知事(代理:空知総合振興局長)
北海道議会議員、流域関係市町村長、議長、
利水者、施工業者、地元関係者、
国土交通審議官
国土交通省関係者 等(約130名)
- 式次第
一、式辞
一、挨拶
一、祝辞
一、工事報告
一、定礎の儀
一、万歳三唱、久寿玉開披

<定礎の儀について>

一連の作業を通じて、参加した各者が協力分担して工事の安全と堅固なダム建設を祈願する意味をもっています。

- 鎮定(ちんてい)の儀
『これからの工事の筋道をつける』
礎石を固めるため、コンクリート材料を礎石のまわりに入れます。
- 斎鍍(いみごて)の儀
『鎮定の儀でつけられた道筋をならす』
鎮定の儀により礎石のまわりに入れられたコンクリート材料を鍍(こて)でならします。
- 斎槌(いみつち)の儀
『斎鍍の儀でならされた道筋を強固にする』
木槌(きづち)を用いて礎石をしっかり納めます。
- 埋納(まいのう)の儀
礎石を堤体と一体になるように埋め込みます。





札幌開発建設部長による式辞

新桂沢ダムは、昭和32年に完成した桂沢ダムを活用して嵩上げするもので、打設後60年経過したコンクリートとの一体化など技術的課題の解決にも取り組み、本体工事の着手を経て、このたびの定礎に至った。事業の推進にご理解とご尽力を賜った皆様に感謝申し上げます。本日を期に心新たに安全な工事完成に向け鋭意努力を重ねてまいります。



国土交通審議官による挨拶

新桂沢ダムの完成が、安全安心、生活基盤の安定、良好な生活環境の確保と流域の発展に貢献することを期待。また、桂沢ダムを運用しながら嵩上げすることで効率的に貯水容量の増大を図るダム再生事業は、国土交通省が進める生産性革命プロジェクトの一つの先例としても期待している。本地域の益々のご発展と工事の安全を心より祈念する。



三笠市長による祝辞

昭和63年2月に幾春別川総合開発促進期成会を発足し、事業実施と早期完成を目指して要望行動を行ってきたところ。ここに定礎式を迎えることが出来、万感胸に迫る思い。新桂沢ダムの完成により、治水・利水両面で流域の安全・安心な暮らしをこれまで以上に守り、まちづくりにも大きく寄与することを期待。安全施工に十分留意し早期完成を願う。



幾春別川ダム建設事業所長による工事報告

新桂沢ダムは平成2年度から建設に着手し、平成27年度より基礎掘削、平成28年度に堤体建設工事の契約を経て、平成29年7月3日よりコンクリート打設を開始し、現在、鋭意工事を進めているところ。今後も職員一丸となって、地域の文化、自然環境への配慮、品質確保及び安全に万全を尽くし、地域の皆様の期待に応えられるよう努力する所存。



鎮定（ちんてい）の儀



鎮定（ちんてい）の儀



斎饗（いみこて）の儀



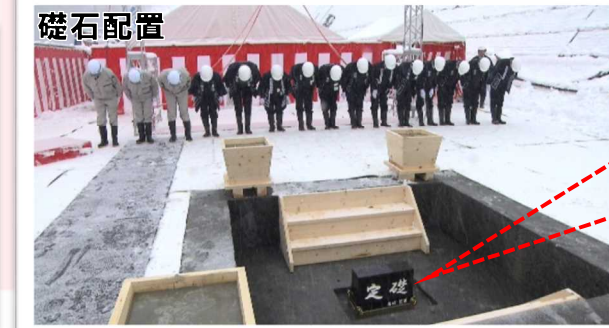
斎槌（いみつち）の儀



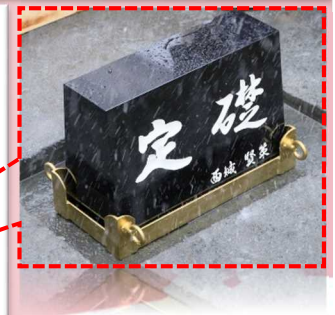
埋納（まいのう）の儀



万歳三唱・久寿玉開披



礎石配置



無事 礎石は埋納されました